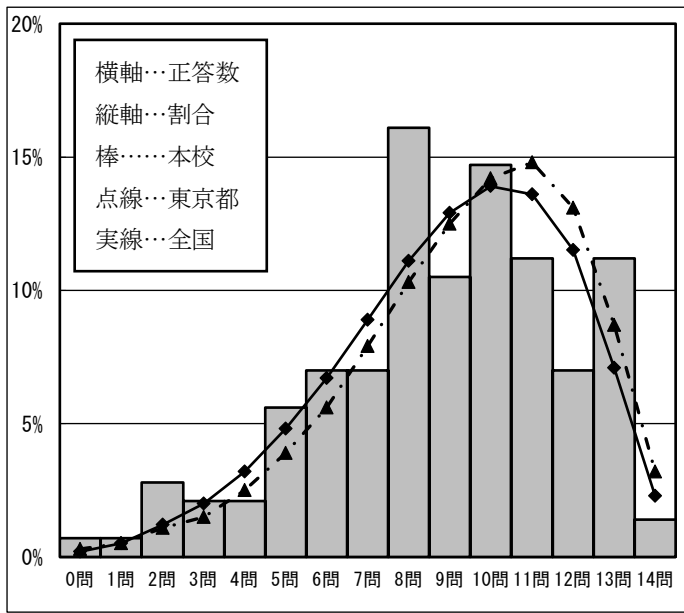


令和3年度 全国学力調査（中3対象）の結果より

国語

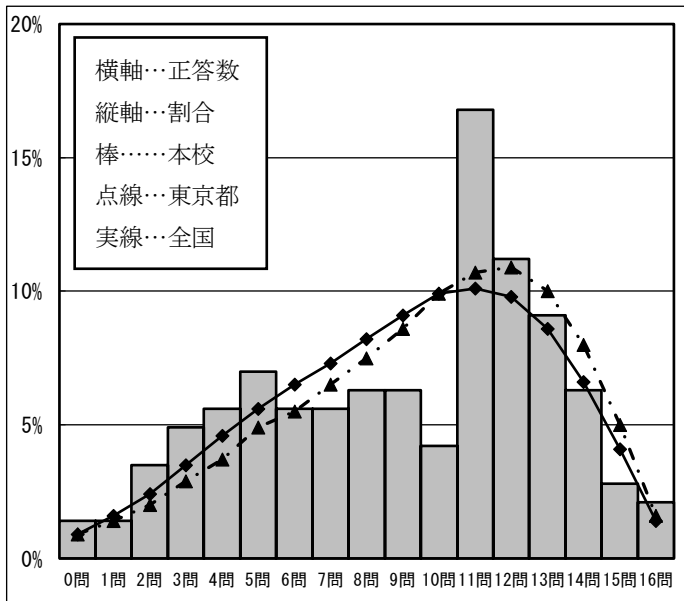


学習指導要領の4領域（「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」）の平均正答率において、「話すこと・聞くこと」、「読むこと」の領域で全国平均を上回っています。

「読むこと」の領域では、ほとんどの問題で全国平均を上回り、特に「登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する問題」、「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ問題」において、正答率が高くなっています。

一方で、「書くこと」において、「書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える問題」、「伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く問題」で正答率が低くなっています。工夫されている点や工夫した方が良い点について具体的な箇所を示しながら互いに意見を述べたり、自分の表現に役立てたりする力を育成することに力を入れていきます。また、相手や場に応じた言葉づかいで表現する力の育成にも心がけていきます。

数学



学習指導要領の4領域（「数と式」、「図形」、「関数」、「資料の活用」）の平均正答率において、「図形」、「関数」の領域で全国平均を上回っています。

「図形」の領域では、「扇形の中心角と弧の長さや面積との関係を理解しているかを問う問題」、「関数」の領域では、「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問題」において、正答率が高くなっています。

課題となっているのは「資料の活用」の領域で、「ヒストグラムからある階級の度数を読み取る問題」の正答率が低くなっています。グラフや代表値を用いてデータの傾向を捉え説明する力を育成することを心がけていきます。また、「数と式」における「整式の加法と減法の計算問題」の正答率も低く、継続的な基礎基本の定着も図っていきます。

生徒質問紙の集計結果より

基本的な生活習慣（睡眠・食事）については、全国や東京都の結果とおおむね同じくらいとなっています。

平日の1日当たりのゲーム時間については、全国平均と比較し、「2時間以上」の割合が13.7%上回りました。詳細としては、全国平均より「4時間以上」で3.6%、「3時間以上、4時間未満」で4.0%、「2時間以上、3時間未満」で6.1%それぞれ上回っているという結果になっています。ゲーム時間の増加は生活習慣の乱れや家庭学習時間の減少にも影響を与えます。この結果を踏まえて、帰宅後の時間の使い方をもう一度見直してみると良いでしょう。

自分自身に関する質問に対しては、肯定的な回答が全国平均より高いものが多くありました。例えば、「自分にはよいところがある」という回答は、9.4%上回っています。また、将来の夢や目標を持っている」という回答は9.7%、「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している」という回答は6.9%上回った結果となっています。これらの結果から、多くの生徒が将来に希望をもち、何事にも前向きに取り組んでいることがうかがえます。引き続き一人一人の良さや可能性を見つけて伝えたり、集団における所属間や達成感を高めたりする取り組みを進め、生徒の自己肯定感や自己有用性の醸成を継続して取り組んでいきます。